

NEWS RELEASE

平成29年3月22日

「第23回旅の文化研究フォーラム」の開催について

近鉄グループホールディングスの文化事業である「旅の文化研究所」（所長：神崎宣武）では、平成29年4月9日（日）に「第23回旅の文化研究フォーラム」をシェラトン都ホテル東京（東京都港区白金台）で開催します。

本フォーラムでは、「旅の文化」にまつわる研究成果の発表やパネルディスカッション「忘れられた山と暮らし—森林鉄道の風景—」を実施するほか「第24回旅の文化賞」の表彰式を行います。

本フォーラムの参加者を募集していますので、ぜひご参加ください。

詳細は別紙をご覧ください。



昨年度開催の「第22回旅の文化研究フォーラム」の様子

■旅の文化研究所について

旅の文化研究所は、「旅の文化」の質的な向上に寄与することを目指して平成5年に開設され、本年で25年目を迎えます。「移動・旅・観光に関する諸問題」をテーマとした調査・研究や研究費の助成による若手研究者の育成等を行っているほか、季刊誌「まほら」の編集・発行等の出版事業を行っています。

別紙

【第23回旅の文化研究フォーラム】

1. 開催日時

平成29年4月9日（日）13時00分～17時30分

2. 開催場所

シェラトン都ホテル東京 地下2階「醍醐東の間」（東京都港区白金台）

3. 内 容

（1）第23回公募研究プロジェクト研究発表

a. 観光を通じた災害復興の可能性とその形成要因に関する研究

—インドネシア・ジョグジャカルタ特別州の事例から—

間中 光（和歌山大学大学院博士課程）

b. 政策移動に関する村落の風水伝説と実践

—近現代中国におけるトン族の事例から—

黄 潔（京都大学大学院博士課程）

c. 旅と病者

—近代の四国遍路とハンセン病者を中心に—

関根 隆司（東京大学大学院博士課程）

d. 祖先のルーツをたどる旅

—ネパール、グルンの民族的故地への巡礼に関する社会人類学的研究—

吉元菜々子（首都大学東京大学院博士課程）

（2）第24回旅の文化賞 表彰式

（3）第24回公募研究プロジェクト 採択発表式

（4）パネルディスカッション「忘れられた山と暮らし —森林鉄道の風景—」

木下 仁（林野庁 森林整備部 森林利用課 山村振興・緑化推進室長）

高木 大祐（成城大学民俗学研究所 研究員）

中村 茂生（中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会 事務局長）

山本 志乃（旅の文化研究所 研究主幹）

4. 募集人員 150名（申込先着順）

5. 参加費 無料

6. 申込方法

（1）電話申込み

旅の文化研究所 03-5820-0360（平日9:10～18:00）

（2）締切り

平成29年4月3日（月）※定員に達し次第締切り

参 考

【旅の文化研究所 詳細】

「旅の文化研究所」は、近鉄グループホールディングス株式会社・東京支社が運営する文化事業で、「旅の文化」を様々な観点から調査・研究し、その質的向上を図ることを目的に活動しています。

1. 設 立 平成5年7月1日
2. 所 長 神崎宣武（民俗学者）
3. 事業概要

（1）調査・研究事業

「移動・旅・観光に関連する諸問題」を主な研究対象とし、恒常的な研究プロジェクトである「特定研究」と日本の大学院生を対象とした「公募研究」を行っています。

a. 特定研究

- 前回の研究テーマ：「昭和の旅行史―旅の記録と記憶の体系化に関する研究―」
このプロジェクトでは、戦前期の日本人にとっての貴重な外国体験ともいえる「満洲」への旅に焦点をあて、満蒙開拓青少年義勇軍の体験者を対象に聞き取り調査や資料集収を行い、その研究成果として『満蒙開拓青少年義勇軍の旅路』を発行しました。
- 現在の研究テーマ：「軽便鉄道の記憶」
本プロジェクトでは、軽便鉄道にまつわる記憶をさまざまな角度から掘り起こし、地域社会において軽便鉄道が担ってきた役割を明らかにするとともに、軽便鉄道をとおしてみた旅と交通の変遷の諸相をとらえます。

b. 公募研究

日本の大学院に在学する学生を対象とし、独創的かつ斬新な発想による研究プロジェクトを公募し、毎年4名の研究プロジェクトを採択、研究費を支給しています。

（2）出版事業

旅の文化の調査・研究を行う当研究所では、その成果にもとづいた「研究報告」などのほか、季刊誌「まぼら」の編集・発行を行っています。

また、当研究所が編纂し刊行された書籍は、主に以下の2つがあります。

- 平成23年11月「旅と観光の年表」（河出書房新社）
- 平成28年4月「満蒙開拓青少年義勇軍の旅路」（森話社）

（3）研修・教育事業

旅の文化の調査・研究活動の成果を、フォーラムを通して公開しています。

- 前回のテーマ：「今も昔も東海道」
日本の幹線道として長く人と物の往来を支えてきた東海道に改めて注目し、東海道をとおしてみた「旅の文化」を考える目的で開催しました。このフォーラムには約150人が参加されました。

(4) 顕彰（旅の文化賞）

「旅の文化」に貢献した諸活動の中から、特に独創的な旅の体験により、それを作品として紹介したり、諸活動を通じて旅の文化の質的向上に貢献した個人や団体を選考し顕彰しています。

➤ 過去の受賞者／団体

年度	受賞者／団体	所属
平成19年度	ヨーゼフ・クライナー	ボン大学近現代日本研究センター長・ 法政大学特任教授
平成20年度	芳賀日出男	民俗写真家
平成21年度	大石芳野	フォトジャーナリスト
平成22年度	北見けんいち	漫画家
平成23年度	安野光雅	画家
平成24年度	野本寛一	近畿大学名誉教授
平成25年度	筒井 功	民俗研究者
平成26年度	フローラ・ジャスミン	司法通訳士
平成27年度	竹田津 実	獣医師・動物写真家・エッセイスト・ 児童書作家
平成28年度	一般社団法人 満蒙開拓平和記念館	—

(以上)